

大学コンソーシアムひょうご神戸
2022年度 第4回 教育連携委員会
議事要項

メール回付：2022年11月22日（火）

回答期日：2022年12月12日（月）

委員校：神戸大学（委員長校）、大手前大学（副委員長校）、大手前短期大学、
関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、
神戸医療未来大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸芸術工科大学、
神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、
神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、
姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫医科大学、兵庫県立大学
(計24校)

1. 審議事項

(1) 2022年度事業の実施内容（結果）と自己評価について（資料1）

2. 報告事項

(1) なし

以上

2022年11月吉日

大学コンソーシアムひょうご神戸

事業委員会 委員長 各位

大学コンソーシアムひょうご神戸

理事長 中井 伊都子

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施頂きました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

記

1. 各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2022年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出

2022年度事業計画（添付1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12月12日（月）正午

2. 今後のスケジュール

- (1) ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12月
- (2) 第9回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12月
- (3) 第6回理事会による事業改善提案の審議：1月
- (4) 各事業委員会へのフィードバックと2023年度事業計画・予算提出依頼：1月
- (5) 第11回企画運営委員会にて2023年度事業計画・予算検討：2月
- (6) 第7回理事会による2023年度事業計画・予算審議：3月
- (7) ひょうご産官学連携協議会にて、2023年度事業計画・予算審議：3月

(添付書類)

- ・添付1 2022年度 事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：大濱・小畑）

電話：078-271-0233 メール：kanri@consortium-hyogo.jp

【2022年度 教育連携委員会 自己評価】

委員長校 : 神戸大学

副委員長校: 大手前大学

委員校: 大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸医療未来大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸芸術工科大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫医科大学、兵庫県立大学

計24校

＜目的＞

加盟校の教育・研究の質を高める「多元的学び」を提供する取り組みとして、加盟校の教育事業についての相互連携、教育資源及びテクノロジー活用に関する相乗効果を図る。

「大学間連携による多様な教育ニーズ」に対応する教育活動を通じて、多様な学生の交流を促進し、学修動機と学修経験の強化、教育効果の向上を目指す。

さらに、学生の所属校の垣根を越えた学びに対して単位認定の道を開くことで、学生が幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性の涵養を図るとともに、コンソーシアム事業への参画の動機づけや、地域貢献活動の実現も期待する。

＜内容＞

1. 単位互換事業の実施

加盟校において幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や加盟校の特徴を生かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。「多様なメディアを高度に利用した」科目等も取り入れる。

2. 多様な学修機会の提供

加盟校に通う学生等に多様な学修機会を提供するため、加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する。

＜期待される効果＞

1. 単位互換事業の実施

- (1) 「多様なメディアを高度に利用した」授業科目を本格的に取り入れることで、大学間の地理的・時間的課題を解消し、より多くの学生に大学の枠を超えた学びの場の提供をすることによる教育効果の向上。
- (2) コンソーシアム事業(国際交流、地域連携、社会連携等)に対する学生への意識づけの促進。

2. 多様な学修機会の提供

- (1) 加盟校の教育資源を活用する「多元的学びの機会」を継続的に提供することによる、加盟校の教育事業についての相互連携、教育・研究の質の向上。
- (2) 異なる分野の学生等の交流促進による広い視野を持った人材の育成。

課題⑦ 大学間連携による多様な教育ニーズへの対応		予算額
取組1	単位互換事業	590,000円
取組2	多様な学修機会の提供事業	10,000円

【2022年度 教育連携委員会 自己評価(課題⑦取組1)】

【⑦取組1】達成目標	各年開放科目数10科目以上
【⑦取組1】活動指標	送り出し校数・5校/年

課題⑦	大学間連携による多様な教育ニーズへの対応		
達成目標【⑦取組1】	各年開放科目数10科目以上		
課題を解決する取組概要【⑦取組1】	単位互換事業の実施		
活動指標【⑦取組1】	送り出し校数・5校/年		
内容 (結果)	<p>加盟校学生に、幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や各大学の特徴を活かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施した。</p> <p>1. 2022年度単位互換事業 昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響下での事業実施となったが、授業形態の多様化により、例年よりも大幅に履修者を増やす結果となった。 (直近3か年の推移は以下のとおり) 2022年度 15校、開放科目数85科目、履修者42名(8大学)※ 2021年度 11校、開放科目数43科目、履修者29名(8大学) 2020年度 15校、開放科目数41科目、履修者 8名(3大学) ※履修者42名の内訳: 対面31、非対面11(オンデマンド10、オンデマンドとオンライン併用1)</p> <p>2. 2023年度に向けた取組</p> <p>①単位互換協定書締結大学の拡大 ・協定未締結校に対して依頼文書を発出した(11月中旬締切) ・新たに聖和短期大学が協定書を締結した(11月9日付) ・2022年度 協定書締結大学 : 35校(28大学、1専門職大学、6短期大学・部)</p> <p>②広報ツールの制作 学生への周知拡大を図るため、神戸芸術工科大学の協力のもと、ポスターとチラシを作成中。</p> <p>③開放科目の選定 12月以降に覚書締結大学へ照会予定。</p>		
新しい試み等 (事業計画に記載)			
事業収支	収入(円) 590000円	支出(円) 10240円	収支(円) 備考 579760円 ※2022年10月31日現在執行額

自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	<p>昨年度に包括協定書の見直し(遠隔授業科目を単位互換科目として位置づけることの明確化)を行ったことにより、今年度は履修者42名と昨年度よりも大幅に履修者が増加した。これまで距離的・時間的制約により履修者数が伸びてこなかったが、教育のICT化により単位互換事業も新たな段階に突入し、今後の学生へ多様な学びの機会の提供に繋げていきたい。</p>			

■自己評価基準
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
- 3:当初計画を達成
- 2:当初計画をやや下回った
- 1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
- 3:本プログラムは継続しても良い
- 2:本プログラムの継続には改善が必要
- 1:本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	
----------------------------	--

【2022年度 教育連携委員会 自己評価(課題⑦取組2)】

【⑦取組2】達成目標	各年プログラム数5件以上
【⑦取組2】活動指標	参加者数50人以上/年

課題⑦	大学間連携による多様な教育ニーズへの対応			
達成目標【⑦取組2】	各年プログラム数5件以上			
課題を解決する取組概要【⑦取組2】	多様な学修機会の提供			
活動指標【⑦取組2】	参加者数50人以上/年			
内容(結果)	<p>加盟校に通う学生等に、多様な学修機会を提供するため、本計画期間内において、段階的に加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供するするとともに、「大学e-learning協議会共通基盤教育システム」を加盟校に試行運用の機会を提供した。</p> <p>1. 公開講座等の大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校への開放 11月末現在で17件の公開講座等を大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の教職員ならびに学生へ広く開放し、多様な学修機会を提供した。(加盟校からの参加者数は160名)</p> <p>2. ICTを活用したコンテンツの検討 「大学eラーニング協議会共通基盤教育システム」を教育連携委員会委員校以外の加盟校にも周知を行ったうえで、7月に第1回「教育コンテンツ提案」WGをオンラインで開催し7大学が参加した。会議ではコロナ初期、ウイズコロナ、ポストコロナの3期に分けて各大学の実情を報告するとともに課題についての情報共有や、オンライン授業等に関する事前アンケートについての意見交換を行った。第2回は12月に実施予定で外部から講師を招き、「オンライン教材づくりのポイントについて」解説をいただく予定である。 また、11月には、大学eラーニング協議会 コンテンツ・教材共有部会主催で入学前教育に大学eラーニング協議会のシステムを利用されている大学の事例や、システムの設定方法を紹介するミニ勉強会を開催した。</p>			
新しい試み等(事業計画に記載)				
事業収支	収入(円)	支出(円)	収支(円)	備考
	10000円	0	10000円	※2022年10月31日現在執行額

自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	3
	<p><達成目標> 各年プログラム数5件以上 <活動指標> 参加者数50人以上/年 <2022年度実績> 実施プログラム数17件、参加者数160人(令和4年11月末現在)評価としては当初計画を達成しており、プログラムを継続してもよいと思われる。</p> <p>①公開講座等の大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校への開放 今年度から多様な学修機会を提供するために加盟校に通う学生等に開放できる公開講座等を開放したことで、授業とは異なる新たな気づきを学生に芽生えさせることができた。</p> <p>②ICTを活用したコンテンツの検討 コロナ禍の影響で殆どの大学がオンライン授業を実施した中で、WGを実施して各大学の実情と課題について意見交換を行ったり、外部講師を招いてオンライン教材の作成に関する講習会を実施し、新たな授業方法を工夫する機会を提供できた。</p>			

■自己評価基準
(対到達目標)

4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)	
------------------------	--